

**美浜区支え合いのまち推進計画
－第 5 期美浜区地域福祉計画－
(令和 4 年度～令和 8 年度)**

令和 6 年度の取り組みについて

令和 7 年 3 月 1 8 日

美浜区支え合いのまち推進協議会

目 次

○ 計 画 の 体 系	・ ・ ・ ・ ・	1
○ 稲毛海岸地区部会エリア	・ ・ ・ ・ ・	2
○ 幸町2丁目地区部会エリア	・ ・ ・ ・ ・	3
○ 幸町一丁目地区部会エリア	・ ・ ・ ・ ・	4
○ 高洲・高浜地区部会エリア	・ ・ ・ ・ ・	6
○ 真砂地区部会エリア	・ ・ ・ ・ ・	7
○ 磯辺地区部会エリア	・ ・ ・ ・ ・	8
○ 幕張西地区部会エリア	・ ・ ・ ・ ・	9
○ 打瀬地区部会エリア	・ ・ ・ ・ ・	10

○計画の体系

基本目標	基本方針	施策の方向性	具体的な取組み	重点取組地区（地区部会エリア）
みんなが主役！こころ豊かな美浜（まち）づくり	Ⅰ 住民主体による協働のまちづくり	1 顔の見える関係づくり	（１）顔の見えるご近所づきあいの構築	○稲毛海岸地区部会エリア ○幸町一丁目地区部会エリア ○高洲・高浜地区部会エリア
			（２）地域福祉を推進する団体等の交流やネットワークづくり	○幸町２丁目地区部会エリア ○真砂地区部会エリア
		2 安心、見守り体制の構築	（３）“みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	○稲毛海岸地区部会エリア ○幸町一丁目地区部会エリア ○真砂地区部会エリア ○幕張西地区部会エリア
			（４）防犯・防災対策を通じた地域づくり	○幸町一丁目地区部会エリア ○打瀬地区部会エリア
	Ⅱ 誰もが暮らしやすい環境づくり	3 地域での居場所、交流の場づくり	（５）町内自治会・集合住宅の集会所などの地域資源を活用した交流の場づくり	○高洲・高浜地区部会エリア ○幕張西地区部会エリア ○打瀬地区部会エリア
		4 地域での身近な支え合い活動	（６）地域住民参加型の支え合い体制の構築	○幸町一丁目地区部会エリア
			（７）地域での助け合い活動の推進	○幸町２丁目地区部会エリア ○磯辺地区部会エリア
		5 地域での健康づくり	（８）地域の保健と医療との連携による心身の健康づくり	○幸町一丁目地区部会エリア
			（９）健康づくりイベント等への参加促進	○高洲・高浜地区部会エリア
			（10）誰もが身近に得ることができ、分かりやすい情報の発信	○幸町一丁目地区部会エリア ○真砂地区部会エリア
		6 地域の情報を伝える、伝わる仕組みづくり	（11）身近な相談機関・相談者の情報共有	
			（12）オンラインや訪問相談等の活用による新しい情報伝達の仕組みづくり	○稲毛海岸地区部会エリア ○磯辺地区部会エリア
	Ⅲ 福祉を支える人づくり	7 地域福祉、支え合いの意識を育む	（13）支え合い意識の醸成	
		8 ボランティアの育成・活用	（14）ボランティア人材の育成	○打瀬地区部会エリア
			（15）ボランティア活動への参加促進	○磯辺地区部会エリア ○打瀬地区部会エリア

【稲毛海岸地区部会エリア】

基本方針	施策の方向性	具体的な取組み	令和６年度の目標又は予定	令和６年度の実績	今後の課題と方針
Ⅰ 住民主体による協働のまちづくり	１ 顔の見える関係づくり	(１) 顔の見えるご近所づきあいの構築	・地区内にある４つの避難所運営委員会について、関係を強化し合同で何らかの訓練や防災イベントを実施できるようにし、自治会に加入していないところも巻き込んでいきたい。 ・防災活動において、避難訓練・避難所開設訓練・安否確認活動や在宅避難方法についても各地区で差が出ないような取り組みを行いたい。	・避難所運営委員会が防災訓練の全体的な方向性や統括をしながら、単一自治会ごとに防災訓練を実施。 ・稲毛海岸地区部会が開催する、高齢地域住民の集いの場・交流の場「ふれあい いきいきサロン」「ふれあい 散歩クラブ」、子育て中の親たちの交流の場「ふれあい 子育てサロン」を実施。最近では、各サロンの参加者（高齢者・子育て中の親）が増加傾向となっている。 ・稲毛海岸地区部会がバス研修旅行を２月に実施。コロナ禍で中断していたが、多くの参加者により再開することができた。 ・稲毛海岸地区部会が主催するボランティア講座を１０月に開催。健康に関するテーマにすることにより、より多くの参加者が集まるようにして、地域福祉活動への参加・フレイル予防への啓発へと繋げられるよう工夫した。 ・稲毛海岸地区部会が実施する「ふれあい 散歩クラブ」に防犯パトロールを兼ねて、行き交う人達にあいさつをするようにしている。 ・地区内４自治会で、継続して見守り活動を実施している。立ち上がった新規の自治会に対しては、見守り活動推進の案内を行っている。 ・稲毛海岸３丁目地区において、有志ボランティア(会員)による地域支え合い活動「稲三サポートの会」が継続して活動している。 ・地域運営委員会を中心に地域内において、６月に「ごみゼロクリーンデー」、年末に「クリーン作戦」活動を行い、地域の環境美化に貢献することができた。 ・青少年育成委員会が主催している、地区内の遊歩道でのアジサイの植栽を小学校の児童・中学校の生徒・教職員・保護者・地域住民で行い、花のある散歩道づくりに貢献することができた。 ・青少年育成委員会と稲毛海岸地区部会（児童・母子福祉委員会）とで開催した「スポーツ交流会」では、これまでのグランドゴルフからモルックに変更し、地域の子どもから大人・高齢者までの多世代の参加となり、参加者・住民が一体となった世代間交流のできた大会となった。 ・地区内の自治会において町丁ごとや各自治会単位で「夏まつり」を実施。若い現役世代の多い自治会と、高齢者の多い自治会とで開催に温度差が生じてきている。 ・３８地区連協が中心となって「敬老会」を開催。貴重な交流・外出の機会であるが、会場確保の都合で招待される参加者へ参加費を負担させるか否かが難しく、会場費用のかからない稲浜中学校での開催を検討している。	・地域運営委員会・町内自治連絡協議会・社協地区部会・青少年育成委員会・スポーツ振興会・民生委員児童委員協議会との連携を強化し、連携して町づくりを行っていききたい。 ・小学校・中学校・公民館・公園・自治会集会所といった場所を、もっと交流の場として活用し、世間話のコミュニケーション的な内容から見守り・安否確認・もしくは何らかの奉仕につながってくれる場を提供できるか検討したい。 ・稲毛海岸地区部会が主催する「健康フェスティバル」はＲ６年度は実施できなかったが、参加する高齢者に配慮した町丁ごとにバス送迎を行う企画は参加者に好評だったことから、今後また開催を検討していききたい。
	２ 安心、見守り体制の構築	(３) “みんなで” 支え合う「あんしん支え合いネット」の構築			
Ⅱ 誰もが暮らしやすい環境づくり	６ 地域の情報を伝える、伝わる仕組みづくり	(12) オンラインや訪問相談等の活用による新しい情報伝達の仕組みづくり	・ＳＮＳを活用したサロン等の情報提供。 ・デジタル回覧板の採用と活用。 ・スマホアプリを利用した地区限定の情報を発信していききたい。	・千葉市の事業により３８地区連協において、地域広報における「公式アカウントの作り方勉強会」を開催。無料・有料のＬＩＮＥ アカウントによる自治会単位での発信等について説明を受けた。デジタル回覧板も可能になることから導入についても検討していききたい。 - また、地区部会としても情報発信・情報提供のツールとして考えていききたい。	・「あんしんカード」の普及とカードの内容更新について、進めていきたい。 ・個人のアカウントではなく地区のアカウントを作成することにより、個人情報の保護を図りながら情報提供等進めていきたい。 ・スマホ教室等を実施することにより情報機器に慣れていない年代の方にも漏れなく情報提供できる環境を整えていきたい。

【幸町２丁目地区部会エリア】

基本方針	施策の方向性	具体的な取組み	令和６年度の目標又は予定	令和６年度の実績	今後の課題と方針
I 住民主体による協働のまちづくり	1 顔の見える関係づくり	(２) 地域福祉を推進する団体等の交流やネットワークづくり	・幸町中央集会所のラウンジを活用して、週２回、集いの場「憩いの場 さいわい」を開催。 ・「見守りネットワーク会議」を再開させる予定。 ・避難所運営委員会が主催して防災訓練を８月に実施予定。中学生も参加し、街全体の防災意識を高めさせたい。	・千葉幸町団地自治会が主体となって、「憩いの場 さいわい」を第１・第３木曜日の月２回、茶話会として開催。おしゃべりを通じて安否確認や情報交換を行っている。(毎回 約２０名参加) ・あんしんケアセンターが事務局となって「見守りネットワーク会議」を開催。地区部会(社協)・民生委員・行政だけでなく消防や民間事業者(薬局)も参加し、情報交換を行った。今後、年１回の開催予定。 ・九都県市総合防災訓練に合わせて８月２５日に、幸町第一中学校を会場に防災訓練を行った。	・再開された「ふれあい いきいきサロン」等の参加者数を、コロナ禍前までの人数に戻していきたい。(参加者の減少もありサロン自体の継続も難しい状況にあるが、何とか継続させたい。) ・地域全体で“地域を巻き込む”ような活動・イベントを行うことが多世代交流や担い手の発掘に繋がっていくのではないかとと思われる。教育委員会や青少年育成委員会と連携・協力しながら子ども達に昔あそび等を伝えていくことが必要ではないかと考えている。(団地内の子どもの数が減少し、自治会も未結成が多い状況の中では、このようなイベントの実施は難しいのではないかと。) - また、地域の子どもと高齢者が一緒に参加・利用できるような「子ども食堂」の開設も検討し、多世代交流と孤食解消に寄与できるようにし、独居高齢者が増えているなかで孤の不安を解消できるようにしたい。(今のこの地域の状況であると、人材の確保・場所の確保が困難で実施は難しい。旧幸町第二保育所跡地に３月オープン予定の運動広場が子どもたちの集まる場所になればと考えている。)
II 誰もが暮らしやすい環境づくり	4 地域での身近な支え合い活動	(７) 地域での助け合い活動の推進	・今年度も引き続き、千葉幸町団地自治会(UR賃貸住宅)が主催する「お助け友の会」(助け合い活動)の活動を実施し、地域住民の困り事のニーズに応えられる活動を行っていききたい。 ・今年度も引き続き、あんしんケアセンターが事務局となって「幸町２丁目連携会議」を開催する予定。	・今年度も千葉幸町団地自治会(UR賃貸住宅)が主催する「お助け友の会」(助け合い活動)の活動を実施。URから、チラシの配布・掲示等のPRやビブス等の用具の提供、協力者(サポーター)の管理等の協力を得ている。 ・引き続き、あんしんケアセンターが事務局となって「幸町２丁目連携会議」を年４回開催。 ・多文化共生の取り組みとして、外国人居住者と既住民との交流を千葉大学 国際交流課・留学生とURにより、民族楽器の演奏で多国籍音楽会を実施した。	・当該地域では、UR賃貸住宅の社宅貸しが増えていることから外国人が増加してきており、地域のコミュニティの形成に支障をきたしている。多文化共生として既住民との交流を地域行事に参加してもらうことで図っていききたいと考えている。 ・子どもを通して親同士の繋がりを形成していきたいと考えており、この繋がりから高齢者や外国人が地域・社会から取り残されないようにできないか考えていきたい。(災害発生時の外国人避難者の対応について、日頃からどう繋がっていくかが大事だと考えている。) ・「幸町２丁目連携会議」を有効に活用させ、引き続き情報の共有と連携強化に努めていきたい。

【幸町一丁目地区部会エリア】

基本方針	施策の方向性	具体的な取組み	令和６年度の目標又は予定	令和６年度の実績	今後の課題と方針
Ⅰ 住民主体による協働のまちづくり	1 顔の見える関係づくり	(１) 顔の見えるご近所づきあいの構築	・「健康スポーツ」をさらに推進させていく。特にボッチャは、子ども・大人・高齢者と三世代が参加しやすいことから、交流できるふれあいの場となるようにさせていきたい。 ・男性も参加しやすくなるような「ふれあいいきいきサロン」を作っていきたい。また「ふれあい 食事サービス」をより一層充実させていきたい。	・幸町１丁目地区部会では、①楽しく歌う「アネモネ」②就園前の親子が集う「ぐーちょきぱー」③縁側の日向ぼっこのような「ひだまり」④お弁当の会食（持帰り選択可）「ふれあい給食」⑤学びながらコミュニケーションの「手話クラブ」⑥楽しく踊ろう「和踊りの会」⑦「健康スポーツの会」等のふれあいサロンを開催し、居場所・交流の場として定着している。 ・特に「健康スポーツの会」ではボッチャを取り入れ練習会(毎月２回)及び大会（年２回）を開催し、多世代交流の場となっている。また、グランドゴルフ大会及びボーリング大会を開催し、男性住民の参加を促し、地域での健康づくり及び交流の場となっている。 ・「ふれあい給食」では会食前にシニア体操を取り入れ、フレイル予防の３本柱である栄養・運動・社会参加を意識する工夫をしている。 ・ふれあいサロンを通して大小様々な複数のつながりが自然に作られ、互いに支え合う仕組みができつつある。 ・高齢者の生きがいづくりの場として「人生万歳」を実施。青パトによる地区内防犯パトロール、小学生の登下校時の見守り、夜間の危険個所のパトロールを実施している。 ・地域の美化活動として、「朝風会」によるゴミ拾いや幸町公園での清掃活動の実施。「幸町公園友の会」や「幸町公園アジサイプロジェクト」では公園の清掃・管理、植栽等を行いながら、現役世代を巻き込んだ次世代のリーダー養成も見据えながら実施をしている。 ・３６地区連協による「盆踊り大会」を開催。地域住民にとっての恒例の交流の場となっている。	・日頃から住民の声に耳を傾け、その人らしさを尊重し、ニーズに合わせた情報発信ができるように努める。 ・世代間交流の機会や場を提供する。 ・「健康スポーツの会」は充実した活動を行っているが、男性の参加が少なく定着しないことが課題である。参加促進のために、従来から実施のボッチャに加えて、新規事業としてモルックの練習会・大会を行いたい。また「脳トレゲームの会」を立ち上げ、カードゲームや健康マージャン教室等を検討したい。 ・学校教員の働き方改革により、地域との連携の希薄化が懸念されることから、地域行事の協力体制をどのように構築していったらよいのか検討したい。 ・３６地区連協では、スマートフォンの使い方を気軽に聞けるような「スマホサロン」を学生の協力を得て開催したいと考えている。
	2 安心、見守り体制の構築	(３) “みんなで” 支え合う「あんしん支え合いネット」の構築		・幸町１丁目では、毎朝幸町公園にてラジオ体操を行い、地域での健康づくりに努めた。 ・３６地区連協が中心となって開催している「幸町１丁目健康プラザ」では、要支援者対策や地域住民の通いの場・交流の場として、健康推進の場として、併せて安否確認の場として、地域高齢住民の期待に応えている。	・「呼び寄せ高齢者」対策について、あんしんケアセンターと連携しながら考えていきたい。 ・人口減少や働き方改革により、バス・タクシーの運転手や宅配便の配達員が不足していくことから、今後、買物や病院への移動に支障が懸念されるため、その対策について考えていく必要がある。 ・「ふれあい給食」による会食・配食を通して、見守り活動を行う。 ・認知症に対する理解を深め、この町で暮らす認知高齢者の見守りとその介護をする家族をケアするための施策を検討する。
		(４) 防犯・防災対策を通じた地域づくり	・行政（市）が実施している、高齢者緊急通報システム（ALSOK）の活用を普及させたい。	・行政（市）が実施している、高齢者緊急通報システム（ALSOK）の活用について、引き続き普及に努めた。 ・３６地区連協が中心となって作成した、医療機関・防災拠点・公共施設等が記されている「地域安全マップ」を活用し地域住民の防災意識の向上を図っている。また、「防災講演会」を開催し防災についての現状把握に努め、防災に関する全住民意識調査を行った。 ・３６地区連協による「秋季 防火防災総合訓練」を１０月に実施した。 ・幸町一丁目ガーデンタウンにおいて、毎年１月に「もちつき」を実施。住民が参加することにより、安否確認・配食訓練を行うことができ、防災訓練となっている。	・地域住民のボランティアによる見守り活動については限界があることから、行政（市）が実施する「高齢者緊急通報システム（ALSOK）」の活用を勧める。同時に、ALSOK の利用は固定電話の設置が条件であること、今後ますます独居高齢者が増えることから、携帯電話(スマホ)や他媒体による新たな見守りシステムの検討が必要と感じている ・外国から発信される詐欺電話等不信な電話を受信しない操作方法等を周知し、注意喚起したい。 ・これまで、３６地区連協が発行する広報紙「けやき」に掲載してきた「防災メモ帳」をパンフレットにして作成し、地区内の住民世帯に無料で配布する予定。

【幸町一丁目地区部会エリア】

基本方針	施策の方向性	具体的な取組み	令和6年度の目標又は予定	令和6年度の実績	今後の課題と方針
Ⅱ 誰もが暮らしやすい環境づくり	4 地域での身近な支え合い活動	(6) 地域住民参加型の支え合い体制の構築	・「CoCo 放課後自習室」を引続き実施。ボランティア講師に今年度は千葉大生を予定。 ・「安心サポート」の会による支え合い活動を引続き実施していく。	・千葉大生の協力を得て、夏・秋休みに「勉強会」を実施した。冬の学習会は未実施。今後の千葉大生との連携・協力について確認し、次年度につなげることが出来た。 ・「安心サポートの会」による地域支え合い活動を引き続き実施。地域住民にとって頼れる存在となってきた。 ・買物困難者のための「金曜ふれあい市」を開催している。	・災害時における「要支援者対策」として、どのように支援を行っていけばよいのかについて考えていかなくてはならない。幸町一丁目地区は集合住宅が多く地域コミュニティが希薄なエリアもある中、支援する側・される側も高齢者であることから「災害対策」について今後、真剣に考えていく必要がある。
	5 地域での健康づくり	(8) 地域の保健と医療との連携による心身の健康づくり		・幸町1丁目地区部会では理学療法士による健康教室を年6回開催した。参加者一人一人の状態を確認しながらの説明や運動はわかりやすく好評であった。男性高齢者の参加が増えた。	
	6 地域の情報を伝える、伝わる仕組みづくり	(10) 誰もが身近に得ることができ、分かりやすい情報の発信	・幸町一丁目地区部会の広報紙「小窓」(A4両面2ページ)を年間6回の発行のうち、2回をカラー刷り4ページで発行する予定。	・幸町1丁目地区部会広報紙「小窓」を年6回発行した。活動の様子や予定、地域福祉に関する情報等を掲載し、社協活動に関心を持ってもらえるような紙面作りに努めた。 ・毎月の活動予定を周知する「〇月の社協」を発行、各自治会及び管理組合の掲示板に掲示した。 ・36地区連協による広報紙「けやき」を年6回 隔月で発行。地区部会広報紙「小窓」と交互に発行することにより、地域住民にとっては毎月、紙媒体による情報発信を得ることができるよう工夫している。また、ホームページも開設し、デジタルによる情報発信も行っている。 ・幸町一丁目ガーデンタウン地区において、有線ケーブルテレビが開局しており、地域の情報を発信している。 ・幸町一丁目ガーデンタウン 管理センター内において、「ガーデンギャラリー」を開設し、地域文化の振興と情報発信の基地として地域に貢献している。	・現在、情報発信のツールとしてPCやスマホによるSNSが主流となり、今後「デジタル化・IT化」「AI」利用がますます進んでいくと思われるため、高齢者が情報難民とならないように、紙媒体での「広報紙」をさらに充実させて、必要な人に必要な情報の伝達ができるよう努めたい。

【高洲・高浜地区部会エリア】

基本方針	施策の方向性	具体的な取組み	令和６年度の目標又は予定	令和６年度の実績	今後の課題と方針
I 住民主体による協働のまちづくり	1 顔の見える関係づくり	(１) 顔の見えるご近所づきあいの構築	・すでに実施されている「ふれあい いきいきサロン」「ふれあい 食事サービス」を地域住民の交流の場（顔を合わせられる場）として、より一層充実させていきたい。また、コロナ禍で休止していたサロン交流会を開催し、地区内１１サロンの活動状況の情報交換を行いたい。	・高洲・高浜地区部会が地域高齢者の交流の場として開催する「ふれあい いきいきサロン」では、参加者のニーズに応じたメニューをサロンスタッフが考えて実施している。また、参加高齢者が健康に関する関心が高いことから社協 美浜いきいきプラザと協働で「健康フェスティバル」を開催し、健康維持の促進とフレイル予防を目的として健康測定会・講演会を実施した。 「ふれあい食事サービス」では、地域の高齢者を対象として、地域のボランティアの方たちが食事のメニューを考え、調理し、会食を３ヶ所で行っている。 ・８月と２月に高洲コミュニティセンターにて高洲・高浜地区部会が主催する「こどもフェスタ」を開催。親子の参加により子どもたち同士の交流や親同士の交流の場ともなっている。 ・高洲・高浜地区部会 障害者福祉委員会により、車いす利用者と一緒にバス旅行を実施。長い緩やかなスロープの昇りを介助しながら水族園での見学を行った。 ・高洲・高浜地区部会 ボランティア委員会が中心となって、ＪＲ稲毛海岸駅前の花壇の手入れを実施。春には花苗の植え替え、水やりは交代で毎日行った。 ・自治会組織のない地域の７５歳以上の高齢者を対象に、高洲・高浜地区部会が中心となって、「高洲・高浜地区合同敬老会」を開催。参加高齢者の外出の機会や安否確認・状況把握の場ともなっている。	・２９地区連協を中心とした地域運営委員会で高洲第二中学校の跡地利用について市に要望を行い、当該地域にとって有益となるような活用方法（避難所や高齢者が利用できる施設等）について、今後も検討していきたい。
II 誰もが暮らしやすい環境づくり	3 地域での居場所、交流の場づくり	(５) 町内自治会・集合住宅の集会所などの地域資源を活用した交流の場づくり	・すでに実施されている活動事業を、より充実させ、地域・地域住民に浸透させていきたい。		・独居高齢者・高齢者夫婦世帯の方だけでなく若い世代の方たちもいるような集いの場をつくり、世代間交流が図れるようにしていきたい。 ・介護相談室併設型のコンビニ（ケアローソン）を活用したイベントを、連携しながら企画・実施していきたい。
	5 地域での健康づくり	(９) 健康づくりイベント等への参加促進			

・「ふれあい食事サービス」では、地域の高齢者を対象として、地域のボランティアの方たちが食事のメニューを考え、調理し、会食を３ヶ所で行っている。

・８月と２月に高洲コミュニティセンターにて高洲・高浜地区部会が主催する「こどもフェスタ」を開催。親子の参加により子どもたち同士の交流や親同士の交流の場ともなっている。

・高洲・高浜地区部会 障害者福祉委員会により、車いす利用者と一緒にバス旅行を実施。長い緩やかなスロープの昇りを介助しながら水族園での見学を行った。

・高洲・高浜地区部会 ボランティア委員会が中心となって、ＪＲ稲毛海岸駅前の花壇の手入れを実施。春には花苗の植え替え、水やりは交代で毎日行った。

・自治会組織のない地域の７５歳以上の高齢者を対象に、高洲・高浜地区部会が中心となって、「高洲・高浜地区合同敬老会」を開催。参加高齢者の外出の機会や安否確認・状況把握の場ともなっている。

【真砂地区部会エリア】

基本方針	施策の方向性	具体的な取組み	令和6年度の目標又は予定	令和6年度の実績	今後の課題と方針
Ⅰ 住民主体による協働のまちづくり	1 顔の見える関係づくり	(2) 地域福祉を推進する団体等の交流やネットワークづくり		・真砂地区部会が交流の場として主催する「ふれあい いきいきサロン」「ふれあい 子育てサロン」「ふれあい食事サービス」や「クリスマスコンサート」等を実施し、地域住民や地域団体の交流・ネットワークの推進を図ることができた。 ・地域運営委員会の会議が3ヶ月に1回開催され、地域内の各種団体が参加出席することにより情報交換・ネットワークづくりが図られている。 ・真砂地区部会 障害者福祉委員会が中心となって、地域内の障害者施設と地域活動を通して交流を図っている。 ・地域で開催される「真砂コミュニティまつり」「美浜区民フェスティバル」に参加して、真砂地区の各種団体のPR活動を行っている。	・高齢者の交流の場となる「ふれあい いきいきサロン」「ふれあい食事サービス」等をさらに充実・活発にし、単身の（寂しい）高齢者が孤独感・疎外感を感じることをないようにしていきたい。また、地域活動従事者（住民ボランティア）がやりがいを感じられるような企画内容・結果にしていきたい。 ・様々な活動における日常事務の処理をパソコン等により電子化・デジタル化させて、負担を軽減させることにより、活動参加者を確保していきたい。 ・地域支え合い活動において、高齢のボランティアスタッフ（従事者）の肉体的・体力的負担を軽減させるような方策を考えることが活動の継続性・高齢者のボランティア参加を促進・促すことにつながっていくと考えられる。
	2 安心、見守り体制の構築	(3) “みんなで” 支え合う「あんしん 支え合いネット」の構築		・真砂地区部会「ささえあい まさご」は、引き続きゴミ出し支援・買物支援等を実施していて、地域からの信頼を得ている。 ・自治会が中心となって、見守りを兼ねて防犯パトロールを実施している。 また、千葉西警察署と連携して町内自治会の協力を得て防犯ポスターを貼り出し掲示している。	
Ⅱ 誰もが暮らしやすい環境づくり	6 地域の情報を伝える、伝える仕組みづくり	(10) 誰もが身近に得ることができ、分かりやすい情報の発信	・夏祭り等の場を活用して情報発信を行う。 ・引続き、地域運営委員会のホームページで情報発信を行っていく。	・地域運営委員会のホームページ内で、各団体が情報の随時更新を行っていて、誰もが見やすいように整備を行っている。 ・真砂地区部会が発行する広報紙「真砂ふれあいだより」を地域内に全戸配布を行い、存在や活動の周知を図っている。	・地域住民の福祉意識（支える⇔支えられる）を高め、まちの価値を高めていきたい。また、空き家対策についてまち全体で検討し、防災・防火対策や感染症対策等につなげていきたい。 ・真砂地区は詐欺被害が多いため、さらなる対策（情報提供・発信）を講じていきたい。 ・災害避難時における避難所・避難中の災害関連死を減らせるよう、避難所設備や非常食（災害食）を改善していきたい。

【磯辺地区部会エリア】

基本方針	施策の方向性	具体的な取組み	令和６年度の目標又は予定	令和６年度の実績	今後の課題と方針
Ⅱ 誰もが暮らしやすい環境づくり	4 地域での身近な支え合い活動	(7) 地域での助け合い活動の推進	・磯辺地区（３３地区連協）で自治会単位で実施している「地域支え合い活動」について実施を検討している未実施の自治会に対し、実施に向けた啓発・説明を行っていききたい。	・「支え合い活動」を自治会で実施することの重要性や必要性については承知している自治会が多い。しかしながら、既存の活動以外に新たに「支え合い活動」に取り組むことに躊躇している自治会が多いこともまた事実である。担い手の高齢化、思ったほど若い世代の協力が得られないなどが要因となっている。そういう背景のもと、未実施の自治会へ、どういうふう「支え合い活動」の導入を働きかけていくのか、これは容易く解決策が見いだせるものではない。早い時期より「支え合い活動」を導入し、実績を挙げている自治会もあることから、あらゆる機会を通して、啓発・説明ができるように努力している。	・地域課題の一つである高齢者福祉の推進にあたり、４自治会で実施している「見守り活動」を、「地域支え合い活動」へと展開・繋げていけるよう考えていきたい。 ・高齢者に関する最初の相談窓口である「あんしんケアセンター」や生活困窮者への相談窓口である「生活自立・仕事相談センター」のPRを積極的に行い、地域高齢住民に対して存在・活用の周知をさらに行う必要がある。 ・高齢者や社会的弱者に関する課題に対して専門諸機関を連携させて活用が図れるようにしていきたい。 ・地域課題を共有して解決策や支援体制を構築していけるよう、街ぐるみで高齢者対策について考えていかなければならない。
	6 地域の情報を伝える、伝わる仕組みづくり	(12) オンラインや訪問相談等の活用による新しい情報伝達の仕組みづくり	・磯辺地区部会が主催する「ふれあい 子育てサロン」の様子・情報を、Instagramで発信させていききたい。	・取組みは概ね良好に推移し、「インスタを見て、子育てサークルを知った」という参加者が何組もいる。とりわけ、地域の演奏グループに来室していただき、ミニ・コンサートを開催したときの様子や、クリスマス会の盛況ぶりを、即時、臨場感豊かにお知らせできたことが、潜在的な参加者を掘り起こすきっかけになったと思われる。	・地域情報の発信・回覧・連協会議資料・自治会費の集金等について、今後、地域活動においてもインターネットの活用等デジタル化対応について考えていく必要がある。
Ⅲ 福祉を支える人づくり	8 ボランティアの育成・活用	(15) ボランティア活動への参加促進	・磯辺地区部会と３３地区連協の共催で、地域支え合い活動の実践者による話を、未実施地区の自治会の方を対象に講演会を開催したい。 ・様々な地域団体が地域活動をしているところをツアー的に参加・体験・手伝いをしてもらうところから、活動の担い手を発掘・引き込んでいききたい。 ・時間と体力・活動力のある６０歳代にターゲットを絞って、地区部会活動の担い手として引き込んでいききたい。	・令和６年度も、さまざまな感染症が年間を通して流行する状況であったので、地域拠点（磯辺地域ルーム）に、ある程度の人数を集めての講演会の実施には、踏み切れなかった。 ・磯辺地区内の小規模ではあるが障害者の地域活動の拠点となっている事業所へ出向き、一緒に活動（庭木の夏ミカンを加工してのマーマーレードづくりなど）をしたり、バス旅行にも参加し、車中でビンゴ大会を主導するなどの取り組みができた。それらの活動を通して、参加者（対象者を含む）を「待つ」のではなく、こちら側（地区部会の理事など）が「出向く」ことの重要性を認識できた。	・福祉に関わる「人」の確保と、その「質」の向上を目指すためには何をやるべきなのかを、よく考えていく必要がある。 ・これまでの社協 地区部会の活動をこれからも継続させて（成り立たせて）いくためには、地区部会の担い手（人材）の確保が大事であり、そのためにも、地区部会がやるべきことを確立し継続させていくことを磯辺地区全体で考えていきたい。

【幕張西地区部会エリア】

基本方針	施策の方向性	具体的な取組み	令和６年度の目標又は予定	令和６年度の実績	今後の課題と方針
I 住民主体による協働のまちづくり	2 安心、見守り体制の構築	(3) “みんなで” 支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	・幕張西地区部会が主催して、小学３年生以上を対象とした「料理教室」を開催する。 ・「幕西５６５６食堂」（地域子ども食堂）を地元のスーパーからの支援や助成金を受けながら開催させていきたい。	・幕張西地区部会が主催する、小学３年生以上を対象とした「料理教室」は２月に開催。地域内の幕張西公民館の協力により、小学校児童へ参加案内・参加申込受付・実施会場の提供などを行っていただき、地域の中で連携して実施することができた。（15名参加） ・「幕西５６５６食堂」は、７月から始まり毎月一回の開催で実施。千葉市社協 地域ふくし力アップ助成金を活用し、地元の広報紙や幕張西地区部会の広報紙（ＹＯＵ＆Ｉ）への掲載、スーパー・宅配事業者等による食材の提供、調理や受付のボランティアスタッフ等、幅広い年代の様々な方たち・団体・企業からの協力・連携により開催することができた。 ・幕張西地区部会が主催する、高齢者を対象としたバス研修旅行を２月に実施。参加住民間で意見交換・情報交換・状況確認等を互いに行うことができた。	・幕張西地区部会エリア（３０地区連協）１５自治会の内、見守り活動が立ち上げられていない２自治会に対して、引き続き「見守り活動」の実施について働きかけていきたい。 ・幕張西地区部会エリアでは、３０地区連協（町内自治会）と幕張西地区部会との協力体制が整っているので、より一層この連携が強まるようこれからも努めていきたい。
II 誰もが暮らしやすい環境づくり	3 地域での居場所、交流の場づくり	(5) 町内自治会・集合住宅の集会所などの地域資源を活用した交流の場づくり	・幕張西地区部会エリア（３０地区連協）において、安全・安心のまちづくりを目指して秋頃に防災訓練を実施する予定。	・１１月に幕張西小学校の体育館・校庭を利用して、３０地区連協による防災訓練を実施した。体育館ではクイズ形式で防災知識を学び、校庭では消火訓練等を行った。	・３０地区連協が主催する「夏祭り」が、地域住民の交流の場・親睦の場・地域づくりの場としてこれからも継続して開催させていけるよう地域内の各団体と連携・協力していきたい。

【打瀬地区部会エリア】

基本方針	施策の方向性	具体的な取組み	令和６年度の目標又は予定	令和６年度の実績	今後の課題と方針
I 住民主体による協働のまちづくり	2 安心、見守り体制の構築	(４) 防犯・防災対策を通じた地域づくり	・防災対策として「備えパーク」を引き続き実施し、いざという時の消防・防災・ペット対応等について学んでいきたい。	住民主体による協働のまちづくり ・５月に「ペイタウンまつり」を開催。子どもから高齢者までが街に出てきてもらうことを目的として実施。８月に「夏祭り」を開催。１０月に「クラシックカーレースゴールセレモニー」「コアフエスタ」を開催。１２月に海浜幕張駅、ワールドビジネスガーデンアトリウムにおいて「幕張新都心クリスマスイベント」を開催。また、「ペイタウンマラソン大会」、「餅つき大会」を実施した。 防犯・防災対策を通じた地域づくり ・３月に防災対策として「備えパーク」を実施し、いざという時の消防・防災・ペット対応等についての展示会やワークショップを幕張海浜公園にて開催した。 ・９月に千葉県警、千葉西警察署と特殊詐欺防止の強化を目指し、地域支えあいの街づくりの一環として、警察庁のＳＯＳ４７プロジェクトの招致により、打瀬公民館で防犯落語の公演を行った。100名の来場により、国際電話不取り扱いによる詐欺被害の防止の一助につながった。	・各種団体・組織による事業において、地域のニーズ（要望）に応じながら各事業を継続させていき、根付かせ、一定期間（３年程度）を過ぎたところで振り返り、評価していくというルーティーン（流れ・仕組み）が必要である。 ・打瀬地区部会・４７地区連協と地区内の商店会・民間企業等と、連携・協働しながら街づくりを進め、強化し、地域住民の期待・楽しみに応えて行けるようにしていきたい。 ・防災対策・要支援者対策について、ペイタウンの街区単位で対応・完結できるよう各住民に対しても意識づけをしていきたい。 ・敬老会の開催を行うマンション管理組合は、昨年度に比べて増加したものの、実施期間が限定されていることや、民生委員との協働が必要なことから、多くは消極的である。自助・共助をまち全体でカバーするのではなく、マンション単位で高齢者や要支援者の把握を行う必要性を訴えていきたい。
II 誰もが暮らしやすい環境づくり	3 地域での居場所、交流の場づくり	(５) 町内自治会・集合住宅の集会所などの地域資源を活用した交流の場づくり	・ペイタウン商店会が運営するコミュニティスペース「絆」において、認知症カフェ・麻雀サークル・音楽会・書道教室等を引き続き開催予定。 ・打瀬地区部会が実施する「子育て・発達障害勉強会」や認知症に関する映画の上映会を実施し、発達障害・認知症等に対する理解を深め、支援していくことに繋げていきたい。 ・「グリーンスローモビリティ」の本格実証調査を行い交通弱者を外に出やすくするという目標に向けて運用方法について検討していきたい。 ・「子ども街歩きクリーン作戦」では、地域内のゴミ拾いをすることから環境問題に関心を持ってもらうため、夏祭りでの特典を付ける等して多くの子ども達に参加してもらえるよう工夫していきたい。	・ペイタウン商店会が運営するコミュニティスペース「絆」において、認知症カフェ・麻雀サークル・音楽会・書道教室等が月例で開催された。 ・打瀬地区部会 障害者福祉委員会では、６月に初めての企画として「子育て勉強会『子育てのヒントお話しします』」を開催し、多くの子育て世代の母親、子供ルーム担当者等の参加があった。また、２月には第３回目となる認知症をテーマにした映画上映会を開催した。（上映作品「ケアニンあなたでよかった。」） ・今年度からの新しい活動として、どなたでも自由に参加できるコミュニティサロン「フリースペース」を開催し、情報・意見交換の場としている。県・市の発達障害支援関係部署のサポートを頂きながら、活動を継続・充実させていく。 ・「グリーンスローモビリティ（愛称：ペイ太くん）」の実証調査の実施（９月１日～１１月３０日の３ヶ月間）の延べ乗車人数１,064名、走行距離１,000kmを60名の地域ボランティアの活動により達成。地域内の交通弱者の課題発掘と、地域交通のあり方、街に暮らす人々の幸福度を向上させる共創の場を持ち、千葉市・ＮＴＴ社会情報研究所・千葉大大学院等、産官民一体となった取り組みに至った。 ・「子どもまち歩き＆クリーン作戦」では、街中と県立幕張海浜公園のゴミ拾いを行い、幕張新都心のＱＶＣスクエア本社の施設見学を実施。350名の小中学校の児童・生徒・保護者、教職員等が参加し、地域内の企業に協力を得ながら、地域コミュニティの発展に寄与できるような活動を実施することができた。	・打瀬地区部会では、障害を持つ人とその家族に対する支援を引き続き行い、強化していきたいと考えており、障害に対する正しい理解を得たうえで、当事者やその家族への支援の意識を定着・高めて行けるようにしたい。 発達障害に対する支援も浸透させ、親御さんが気軽に集まれるような場所（フリースペース）を設けていきたい。また、その悩みに個別に応えていけるような機会を作っていきたい。

【打瀬地区部会エリア】

基本方針	施策の方向性	具体的な取組み	令和６年度の目標又は予定	令和６年度の実績	今後の課題と方針
Ⅲ 福祉を支える人づくり	８ ボランティアの育成・活用	(14) ボランティア人材の育成	・打瀬地区部会が主催するボランティア講座「健康フェスティバル」は、地域に根付いてきていることから引き続き今年度も実施し、開催することにより地域住民に対し地区部会の周知や活動参加への呼びかけを行っていききたい。 ・市立海浜病院が主催する地域住民の健康増進を目的とした打瀬地区住民向けの「糖尿病予防セミナー」を開催し、地域内施設の地域貢献活動に協働していききたい。	・２０２５年３月に、計画通り高齢者を対象にした健康診断会「第３回健康フェスティバル」を開催し、定員として設定した５０名の参加があった。今後も年一回の頻度で開催することとしている。診断項目は、骨密度・体組成・血管年齢・脳年齢・血圧等特に高齢者の健康寿命維持のために注目すべき項目を選定し実施していく。 ・今年度から新たな取り組みとして活動を開始した海浜病院認定看護師による健康セミナーは、初年度として「糖尿病の予防基礎講座」及び「嚥下機能障害」の２講座を開催した。いずれも住民に初めて提供する講座であったことから多くの方の参加を頂いた。来年度も嚥下機能と認知症をテーマにした２講座を開催の予定としている。 ・１１月に打瀬中学校で実施したＥＸ講座では、障害者福祉の講座の他、共存し住み続けられるまちづくりをテーマに、ウェルビーイング・ビーチクリーン・海外留学生との交流等、中学生へ多様性を考え、支え合いの大切さを学ぶ場を設けた。	・地域住民が興味を持ってもらえるような企画のイベントを地区内各種団体・組織と連携して実施したい。実施により参加した住民が主催者側に関心を持ってもらうことにより「人づくり・担い手の発掘」につなげていきたい。また地域づくり・地域福祉に関心を持ってもらい、世代を超えてお互いが気軽に声を掛けあえる・手を差し伸べられるような環境を作っていきたい。 ・地域活動を行うボランティア・担い手の発掘にあたっては、漠然と募集・探すのではなく、活動してほしい分野・テーマをしぼって募集すると集まりやすいのではないかと思われるので今後、募集にあたっての声の掛け方についても工夫をしていきたい。 ・打瀬地区部会では、今後更に地区部会活動の状況をタイムリーに発信し、各世代の皆様に興味を持っていただくことがボランティアの参加に繋がることに期待し、ペイタウン協議会のご理解、ご支援を頂き、ホームページでの活動計画、実績情報の発信に力点を置いて取り組んでいきたい。
		(15) ボランティア活動への参加促進		・打瀬地区部会が開催する各種行事において、参加された方々に、地区部会への加入、ボランティアとしての活動への参加を声掛けしている。今年度打瀬地区部会には３名の新規ボランティアメンバーの加入があった。 ・５月・８月のまつり会場に屋台を出店し、中学生のボランティアによる高齢者への声掛けを行った。	